

第4号 稲作管理特報

平成30年6月8日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

水稻の生育は、田植後の低温・強風や日射量不足の影響などで分けつの発生が遅れたものの、莖数はほぼ平年並みに回復しています。

中干しは晴れ間を逃さず、梅雨が本格化する前に終えましょう。

また、中干しが終了したら、「間断かん水」に切替え、根の伸長を促しましょう。

みな穂農協管内の水稻生育状況（6月5日現在）

	調査 ほ数	草丈 (cm)	莖数(本)		葉齢 (葉)	葉色
			株当り	m ² 当り		
本年	11	28.1	7.3	150	6.0	4.2
昨年	14	28.1	9.4	189	6.4	4.1
平年	-	27.6	7.5	145	5.9	4.1

1 「中干し」の実施

田植後1カ月頃から開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。

莖数が少ない場合は、一度に干し上げず、1日湛水2～3日落水の「間断かん水」により、地固めしましょう。

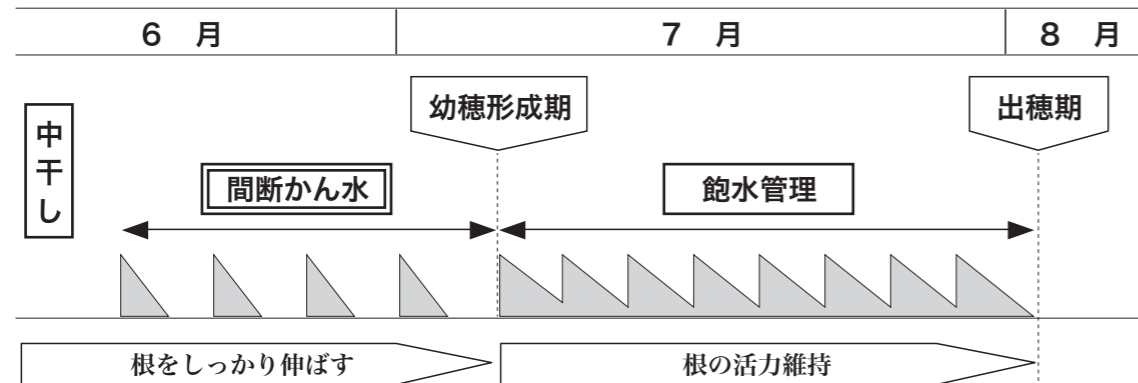
※詳細は、前回の稲作管理特報(第3号)をご覧ください。

2 「中干し」以降の水管理

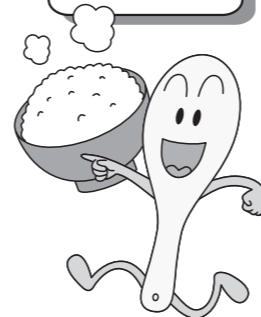
中干し終了後、幼穂形成期までは1日湛水2～3日落水の「間断かん水」で、根の伸長を促しましょう。

幼穂形成期以降は、飽水(ほうすい)管理(足跡に水が残る程度の状態になったら入水して、土が水分不足にならないような管理)を行い、稲が水分不足にならないように管理しましょう。

【水管理のイメージ図(コシヒカリ)】



「間断かん水」と「飽水管理」で、夏の高温に負けない根づくりを！



3 「エスアイ加里らくだ」の施用

県内の水田土壌では、「カリ」及び「ケイ酸」含量が大幅に減少しています。稲の受光体勢の改善や下葉の枯れあがりを防ぐ効果があることから、必ず補給しましょう。

施用時期: 6月20日～25日頃 施用量: 15kg/10a



4 後期除草剤の散布

ヒエや広葉雑草が残った場合は、除草剤を散布しましょう。

対象雑草	農薬名	散布時期	散布量(kg/10a)
ヒエ	クリンチャー1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫30日前まで)	1kg
		田植後25日～ノビエ5葉期 (収穫30日前まで)	1.5kg
ヒエ・広葉雑草	※アクシズMX1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg
	サンパンチ1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後15日～ノビエ3.5葉期 (収穫60日前まで)	1kg
	フォローアップ1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	田植後15日～ノビエ5葉期 (収穫60日前まで)	1kg
広葉雑草	※バサグラン粒剤 (落水してから散布する)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg

※アクシズMX1キロ粒剤は、1回の使用しかできません(中期除草剤として使用した場合、後期除草剤としては使用できません)。

※バサグラン粒剤は、雑草が局部的に多発生している部分へのスポット処理が可能です。散布に当たっては晴天日を選んで散布する。また、散布後3～4日程度は入水しない。

5 草刈り作業による農作業事故の防止！

例年、草刈り作業時の農作業事故の発生が多くなります。雑草地や傾斜地などの作業では、特に怪我や転倒などによる事故に注意してください。

草刈機の点検は、必ずエンジンを止めてから行いましょう。

また、こまめな休憩と水分を十分に取り、熱中症や日射病を防ぎましょう。

※ほ場に残っている補植用の苗は、いもち病の発生源になるので、速やかに処分しましょう。

※斑点米カメムシ類の住みかとなる雑草地や畦畔の草刈りを行いましょう。